

## 門倉薬師と日州通道 その謎？

敷根風土記編纂のための資料として…神宮司耕二

### ○ 医師神社(門倉薬師)

三國名勝図会にも紹介されていて昔から参詣者が多かったと伝えられている。

門倉坂(日州通道)の途中にあり、本来「門倉薬師」であったが廃仏毀釈後「<sup>くすし</sup>医師神社」と称



するようになった。明治42年ごろ、堅富神社、保食神社、天御中主神社、若宮神社、竈神社を合祀して今日に至っている。

近くからわき出る清水は、「薬師の水」として敷根の人々はもとより近郷近在の人々にまで重宝されて現在にいたっている。

また、慶長4年(1599)の「庄内の乱」に参戦した「平田三五郎」らが書き残したといわれる歌も有名である。容姿端麗な美少年だった彼は、吉田大蔵いっしょに参戦の途中門倉薬師に立ち寄り、板壁に次のような歌を書き残したと伝えられている。

- ・書き置くも 形見ともなれ 筆の跡 我はいずくの 土となるらん(平田)
- ・命あらば また来て見ん 門倉の 薬師の堂の 軒の下露(吉田)

二人の墓は、財部町の古井にある。



笛を吹く平田三五郎



岩田・吉田二人のお墓

三國名勝図会では、「本藩三州の内、三薬師の一つなりといふ・・・」とあり、門倉薬師のほかに、帖佐の「米山薬師」と「高岡<sup>ほっけだけじ</sup>法華嶽寺の薬師」が紹介されている。 ※三國名勝図会(1843年)島津齊興の頃編纂される。

## ○ 米山薬師(帖佐)



- ・文明年間(1469～1486)に建立
  - ・祭神「大穴牟遲神」
  - ・「ホソン神サア」 疱瘡水
  - ・命あらば 又も来て見ん米山の 薬師の堂の 軒端  
あらすな(朝鮮出兵の武士の歌)
- ・里歌「帖佐で名所は 米山薬師 前は白帆の走り舟」

## ○ 法華嶽寺薬師(宮崎県国富町)



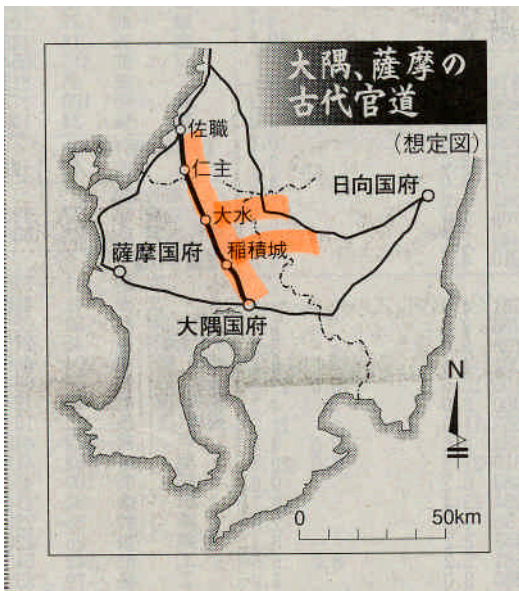
この薬師寺は古くから、越後の米山薬師と三河の鳳来寺とならんで、日本三大薬師のひとつに数えられている。現在も「家内安全」「安産」「病氣平癒」等のお寺として、参拝する人々が絶えることなくことごとくにぎわっている。



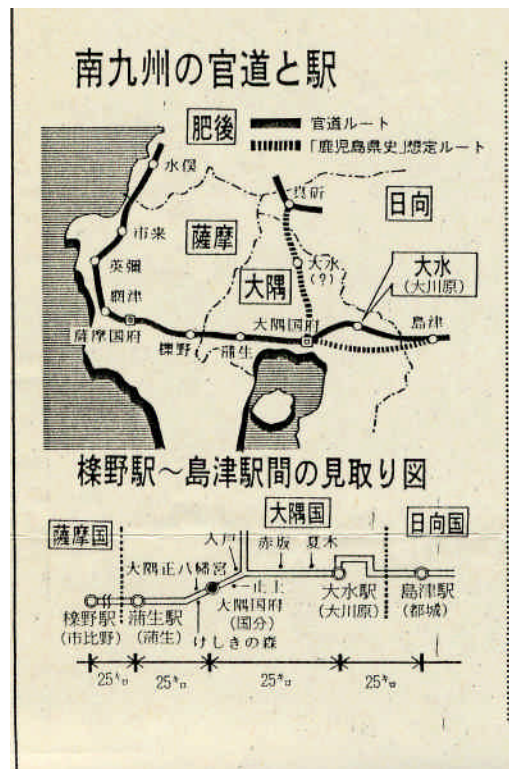
にしゅうつうどう  
○日州通道

江戸時代に薩摩藩では、交通の要所として主に三つの幹線道路がつくられていた。その一つに「高岡(日向)筋」といわれ、鹿児島から加治木を通り、隼人、国分、福山、牧ノ原、庄内、都城へ通じる道路があった。(他の二つは、出水筋・大口筋)

この他に、古い道路として、地頭仮屋のあった敷根麓から鞍掛を通り門倉薬師の坂を登って、上の段、牧ノ原に出る道があった。山間部を通るが、都城に至る最短距離で高岡筋以前の旧道と考えられている。この道を都城や庄内地方の産物や敷根の海産物が運ばれたのではないだろうか。また、宮崎地頭「上井覚兼」も再三この道を通っている。(上井覚兼日記・敷根にも宿泊) これを「日州通道」といい、奈良時代のもう一つの「官道」ではないかと言われている。(略地図参照) ※上井覚兼(1545~1589)・上井覚兼日記は当時の歴史を伝える貴重な資料である。



「地名が示す大隅古代官道」  
H19・2・7(南日本新聞) 平田信芳



「ナゾの大隅官道ルート」  
H3・3・8(南日本新聞)小園 公雄

上の資料で、二人の先生が指定された官道以外のもう一つの道(左・実線 右・点線)が古い日州通道ではなかつたらうか。

敷根の略図で、赤い点線の部分が「古い道路」日州通道の跡と考えられる。この道路を歩いてみると、優しい表情をした三体の「田の神」に出会うことができる。



① 赤川の田の神

(写真の番号は、敷根略図の番号の場所)



② 鞍掛の田の神



③ 門倉坂入り口の田の神

この三体の「田の神」に共通することがある。それはこの「田の神」が置かれた場所は、とてもきれいな「水」のわき出る所で、その近くに「田の神」があることに気がつく。敷根は、こんこんとわき出る豊富な清水の里である。昔の人々は長い旅の疲れをこの清水で癒し、旅の安全を門倉薬師に祈ったのではないだろうか。門倉薬師は、まさにそこを旅する人々の心のオアシスだったと考えられる。三国名勝図会によると「此薬師水は、性品絶佳にして、其味清美なり、百病を癒すとて、病患の徒、常に汲み飲む者多しとかや」と薬師水として紹介している。日州通道は、敷根を通らなければならない必然性があった。そのナゾはこの「水」だったのだ！

(参考資料) ・国分郷土誌 ・始良町郷土誌 ・財部町郷土誌 ・三国名勝図会 ・歴史の道調査報告書(県教委) ・法華嶽薬師寺縁記 ・敷根の神々(池田慎編著) ・古代の道路事情(吉川弘文館)